

流鏝馬祭にあわせて

多度の街道・旧跡を巡る

【日 時】平成28年11月23日(水・祝) 9時から12時

【コース】◆集合場所 養老鉄道 多度駅前

多度駅 ⇒ 尾津神社(小山) ⇒ 旧庄屋屋敷 ⇒ かしらこ塚 ⇒ 尾津神社(戸津) ⇒
空念寺 ⇒ 宇賀神社 ⇒ 柚井城跡 ⇒ まちかど博物館(大黒屋・西大黒屋) ⇒
宮川みそぎ池 ⇒ 多度観音堂 ⇒ 多度大社【 解散 】

(全行程 約 4.5 Km)

桑名歴史案内人の会

清水 達雄 さん

神谷 裕 さん

松本 繁記 さん

山下 博子 さん

加藤 重樹 さん

主催：三重県

後援：桑名市 桑名市教育委員会

協力：桑名歴史案内人の会

◆ 尾津神社(小山)

式内尾津神社に比定される社の一つ、祭神は倭建命ほか6神。「式内社報告書」(昭和52年、式内社研究会編、皇學館出版部刊)では御衣野の草薙神社、戸津の尾津神社よりもこちらが本命視されている。拝殿脇に2本の幹が連なった連理の木がある。この社の樹木には野代の野志里神社同様、標札が整備されている。境内に2等水準点(海拔9.87m)がある。



◆ 旧庄屋屋敷

多度大社の門前町でもある多度町の中でも、街道に沿う戸津地区は古い町並みがよく残されている。特に旧戸津村庄屋を世襲していたという屋敷の長屋門と塀のある屋敷は目を引く。



◆ かしらこ塚

かしらこは「頭古」と書く。平安時代の水軍の将として名高い平清綱(富津二郎)の霊を祀った遺跡。



◆ 尾津神社(戸津)

式内尾津神社に比定される社の一つ、祭神は倭建命ほか8神。古事記や日本書紀に登場するヤマトタケルが天皇の命を受けて東国平定に向かう途中、剣を置き忘れた尾津浜がこの付近だとされる。古代には柚井あたりまで海が入り込んでおり、この付近は尾張へ渡る交通の拠点であったと思われる。古代の東海道榎撫^{えなつ}駅もこの付近に推定されている。境内に天保10年(1839)に法泉寺の僧空観によって建立された「日本武尊歌碑」がある。



◆ 空念寺

柚井字関東に在り、般若山と号し真宗大谷派東本願寺末。本堂六間四面にして本尊阿弥陀如来を安置、境内は六百坪。寺記に依れば往古は聖徳山空然寺と称し天台宗であったが草創未詳であるが古記録に応永3年丙子8月4日空然寺主観雲とあることより、620年余り前から在立していたことが推考される。後代欽得法師本願寺顕如上人に帰依して法名御真筆を賜わり爾後再興して今日に至る。



◆ 宇賀神社

多度山へ登るハイキングコースの入口にある式内社。祭神は^{うかの}宇迦之^{のみたま}御魂神(食の神、商売繁盛の神)ほか9神。境内には前方後円墳1基、円墳2基からなる宇賀神社古墳群がある。境内はシイの森で覆われている。



◆ 柚井城跡

多度山の南斜面に位置し、現在でも土塁の一部が残っており、標高80mほどの丘に何段かの平地が確認できる。^{かじたさ}梶田^{さまのすけ}左馬助及び^{かじたぎょうぶのじょう}梶田^{かなめ}刑部丞を経て西松^{かなめ}要人の居城であったが、元龜2年(1571)に織田信長の配下の柴田勝家、^{うじいへぼく}氏家ト^{ぜん}全に攻略され落城し廃城になったと伝えられている。なお、私有地のため無断での立ち入りは出来ない。



◆ まちかど博物館

● 大黒屋旅の資料館

天保時代の銃器や江戸時代の双六盤、古文書、銅鏡など幾代にも渡り継承されてきた秘蔵の品を展示。



● 手づくり豆西大黒屋

昔、どこの家庭にもあったザルや桶などの古い道具を展示し、昔ながらの手づくり豆を作っている。



◆ 宮川みそぎ池

みそぎ池は、清らかな多度川の伏流水を利用して、宝暦年間にはすでにこの宮川の地に存在し、古くは垢離・搔池（みそぎ池）と称し、多度大社の参拝者は、ここで手を洗い、口をすすぎ身を清めて一の鳥居より神域に入ったとも言われている。

現在でも5月の多度大社の祭礼には、この池の水で御旅所行列の途中、各御厨（奉仕地区）の祭馬にそれぞれ水を飼い足を清める習わしがある。



◆ 多度観音堂

鷲倉観音とも呼び、千手観音立像と十一面観音立像を安置している。千手観音は一木造で平安前期の作、十一面観音は寄せ木造りで南北朝時代前後の作とされるが、痛みが激しく何度も修理の手が入っている。2体とも多度神宮寺に関わりのある仏像と考えられている。伊勢西国33観音霊場の33番札所に当たる。



◆ 多度大社

多度山を神体山にする神社で、社伝によると5世紀後半の雄略天皇の時代に創建されたといわれる古社。北伊勢神宮とも呼ばれ、雨乞いの神、水神、海難除けの神として崇敬され、古代・中世に神宮寺と共に栄えた。長島一向一揆の際に織田信長に焼かれたが、慶長5年(1600)初代桑名藩主本多忠勝によって再興され、慶長年間には伊勢国一の宮とされていたことが棟札から分かる。

明治6年に県社、大正4年には国幣大社という社格が授けられた。その後、平成8年に大社号の奉称を認められ、正式名称が多度大社となった。

社宝に江戸時代中期に本宮裏山の経塚から出土した平安時代の「銅鏡」30面、昭和4年(1929)大社東側の道路を拡張した際に出土した平安時代後期の密教仏具「金銅五鈷鈴」などがある。



この資料は、多度町史、くわな史跡めぐり、みえ歴史街道ウォーキングマップを参考にし、桑名歴史案内人の会の協力により作成しています。

【参考:流鏝馬祭り】

流鏝馬とは、本来天下泰平、国家安隠の祈りを込めて行われてきました。時代と共に、疫病が流れると言ったり、農業の豊凶を占ったり、祈願したりといった様々な形に変化してきたようです。その所作についても、小笠原流や武田流といったように、現在でも昔ながらに伝えているものから、かなり形が変わったものまであります。

多度の流鏝馬

多度大社では現在、5月4日・5日の多度祭「上げ馬神事」後に流鏝馬神事を行っています。疾走する馬上から弓を射るといった本来の流鏝馬の形ではありません。しかし、その年の五穀豊穰、天下泰平を祈念するという意味では変わりなく行われてきました。平成3年より昔から行われている11月23日の新嘗祭に併せ、五穀豊穰を感謝する意味で、本格的な流鏝馬を小笠原一門の奉仕により桑名市の祭りとして行っています。



流鏝馬当たりの

流鏝馬祭りでは騎乗した射手が境内馬場に設けられた三つの的に向けて矢を射る神事ですが、実際に流鏝馬で射抜かれた的は縁起物として頒布されています。この当的は一発必中というところから、受験生などが多く受けられます。

流鏝馬祭行事予定

社頭の儀 12:30～	宮司以下神職が神楽殿にて祭典を奉仕し、流鏝馬射手に弓と矢が手渡される。
馬場入りの儀 13:00～	神楽殿前にて奉幣が行なわれ、その後、奉仕者が馬場に進む。
行事開始 13:10頃～	日記役の「流鏝馬はじめませ」の号令を流鏝馬射手が受け行事が開始される。
流鏝馬開始 13:15頃～	馬場の準備が整ったことを知らせる扇が振られると、一の射手が疾走する。最初の方の射手は流鏝馬射手で、装束、矢、的の大きさが異なる。流鏝馬射手が終わると、挟み者射手が行なう。毎年20騎ほどの流鏝馬が行われるが、小笠原宗家はその年の回数を決める。
流鏝馬終了 15:00頃	一般の拝観者には、家内安全、試験合格などにご利益のある当りの的が頒布される。

この資料は、多度大社の協力を得て作成しています

事務局

〒511-8567 桑名市中央町5丁目7番地

三重県桑名地域防災総合事務所 歴史散策係

電話：0594-24-3821